

2015年4月初旬配本予定

20世紀末・日本の美術

—それぞれの作家の視点から

編・著 中村ケンゴ

共著 眞島竜男、永瀬恭一、楠見清、木村絵理子、小金沢智

本体1,800円+税/288ページ/四六判(188×128mm)/並製/ISBN:978-4-908122-01-9 C0070



表紙イメージ

著者プロフィール 中村ケンゴ(なかむら・けんご)
 美術家。1969年生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科日本画専攻修了。現代社会を表象するモチーフを用いたユニークな絵画を制作。国内外の展覧会、アートフェアに多数出品。
<http://www.nakamurakengo.com/>

今、最新の日本現代美術を読み解くために、切実に求められているのは1990年代(=20世紀末)のアートシーンに何が起こったかということです。インターネットが普及していない当時の状況を知る術は少なく、様々な場所において、急ピッチで90年代の検証が行われています。

本書では、新たに制作した「20世紀末・日本美術年表」を元に、90年代からゼロ年代にかけて、各年ごとに重要トピックを拾い上げ、著者であるアーティスト3人が何を見て、何を考え、いかにサバイバルしてきたかをテーマに検証を積み上げます。加えて、『美術手帖』誌の黄金期を支えた元編集長・楠見清、「奈良美智」展など数々の展覧会を仕掛ける木村絵理子(横浜美術館主任学芸員)らを共著に迎え、「20世紀末」のアートシーンをより多彩に読み解いていきます。

「90年代現代アート」のバイブルとして、作家の深い思考を追体験する読み物として、ゼロ年代を生き抜くサバイバルガイドとして、広く読んでいただける書籍となっています。

目次	第1部 1989—2001年 『20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から』
	第2部 1995—20XX年 『20世紀末・日本の美術—何が語られ、何が語られなかったのか?』
	エッセイ・論考
	「90年代のインディーズ・メディアと東京のアート・シーン —インターネット出現前夜のDIY的情報発信者たち」 楠見 清
	「未知の空気の追体験—平成の日本美術形成史」 小金沢 智
	「言葉の不在」 木村絵理子
	「美術館建築ワースト/ベスト1?」 永瀬恭一
	「アート系ウェブサイトの黎明期」 中村ケンゴ+永瀬恭一 ほか

▶ご注文はツバメ出版流通まで

FAX: 03-3721-1922

<http://tsubamebook.com>
 TEL:03-6715-6121 mail:info@tsubamebook.com

貴店名(番線印)	新刊	アートダイバー	http://artdiver.moo.jp
	返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人		
ご担当: 様	冊	20世紀末・日本の美術 —それぞれの作家の視点から	中村ケンゴ 編著
	冊	本体1,800円+税/288頁/四六判(188×128)/並製/ISBN:978-4-908122-01-9 C0070	